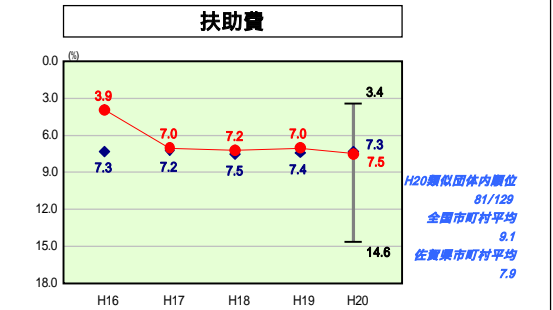
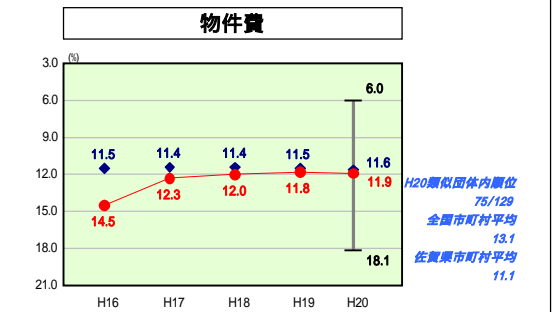
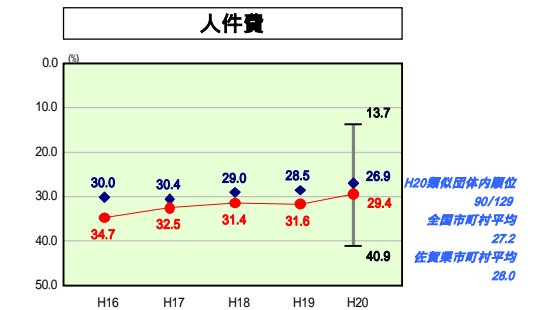
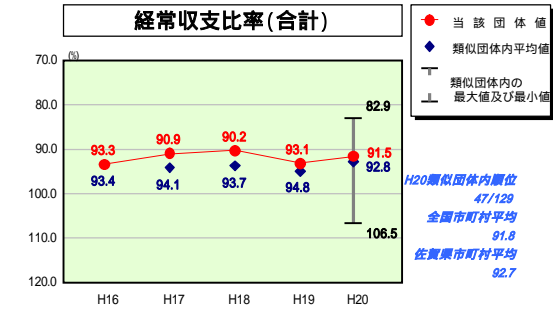
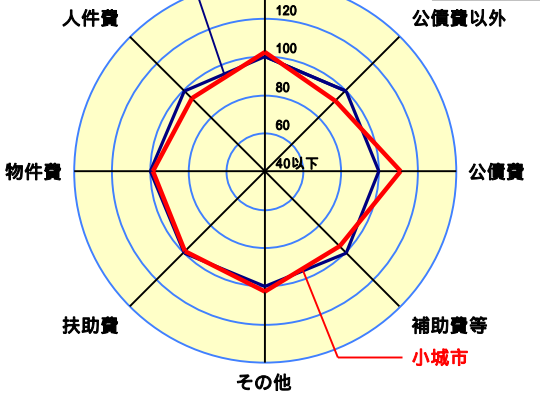


歳出比較分析表(平成20年度普通会計決算)

経常収支比率の分析



人面標準歳実	口積入総額	46,520人 (H21.3.31現在)
標準歳入	総額	95.85千円
歳出総額		10,786,479千円
実収支		16,664,684千円
		16,003,624千円
		390,064千円



- 本レーダーチャートは、当該団体と類似団体平均値より算出した偏差値をもとにチャート化したものである。(偏差値は平均を100としている。)
- 当該団体の八角形が平均値の八角形より外側にあるほど、歳出抑制等により財政構造に弾力性があることを示している。
- 類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

分析欄

人件費
類似団体平均と比較すると2.5ポイント上回っている。ただし、人件費・物件費等の状況及び定員管理の状況は類似団体平均を下回っている。これは非常勤嘱託職員等の正規職員以外の人件費が多いことが主な要因であり、行政サービスの提供方法の差異によるものである。そのため民間でも実施可能な部分については、アウトソーシングや指定管理者制度の導入、民営化を進めているところである。

物件費
類似団体平均と比較すると0.3ポイント上回っている。これは行革等による業務の民間委託や指定管理者制度の導入、職員人件費等から委託料(物件費)へ性質別経費質移転したことによるものである。今後も財政健全化計画に基づいた計画の着実な実行、さらには事務事業評価システムを活用した事務事業の見直しを検討していく。

扶助費
類似団体平均と比較すると0.2ポイント上回っている。扶助費総額は、年々増加傾向にあるため、今後とも単独事業の見直し等により、総額抑制に努める。

公債費
類似団体平均と比較すると5.6ポイント下回っている。今後も義務教育施設の整備事業や臨時財政対策債の発行による影響から、公債費は漸増傾向が予想されるため、市債の繰上償還に努める。

補助費等
類似団体平均と比較すると2.3ポイント上回っている。これは市の単独補助金や一部事務組合の負担金が多額であるためである。今後、事務事業評価システムを利用してスクラップアンドビルドの考えのもと、補助金の見直しを通じて編成、廃止を検討していく。

その他
類似団体平均と比較すると1.0ポイント下回っている。これは国保や後期高齢者医療に対する繰上金のほか、下水道の建設整備事業の繰上金が増加傾向にあることが原因である。特別会計においても財政の健全化を目指し、税や料金の適正化を図るとともに、基準外の繰上金の抑制に努める。

普通建設事業費
類似団体平均と比較すると9.5ポイント下回っている。市内の義務教育施設が全体的に老朽化しており、計画的な改築が必要となることや、平成21年度より庁舎の一本化にむけた既存庁舎の増改築が計画されているため、今後増加する見込である。

